



一般質問

6月定例会の一般質問は6月21日に行われ、6人の議員が登壇し、村政全般にわたり質問がなされました。

質問項目は下記のとおりとなります。項目別の内容につきましては村ホームページの一般質問通告事項一覧をご覧ください。次ページよりやり取りの一部を抜粋して紹介いたします。詳細な内容は会議録の公表をお待ちください。



きたで おさむ 議員
北出 攻

総務経済常任委員

- 地区計画区域について
- 県道稲敷阿見線について

まつむら ひろし 議員
松村 広志

厚生文教常任委員

- 関係人口について
- ドッグランについて
- LGBTについて

やまざき さちこ 議員
山崎 幸子

総務経済常任委員

- 「ヘルプマーク」と「ヘルプカード」について
- 「新学習指導要領の全面実施に伴う対応」について

はなし こういち 議員
葉梨 公一

厚生文教常任委員

- 村立小学校の現状と将来について
- 骨髄ドナー助成制度の創設について

おかざわ きよし 議員
岡沢 清

総務経済常任委員

- 国民健康保険税の住民負担の軽減について
- 学童保育について

はやし しょうこ 議員
林 昌子

厚生文教常任委員

- 健康増進事業の推進について

美浦村地区計画について



北出 攻
き た で お さむ
議 員

質問 地域交流地区B地区の進捗状況は。

答弁 (経済建設部長) 2社の出店申し込みがあり、地権者間でどちらに決定するか検討を進めている。

質問 地域交流地区以外にも大きめの店舗を立地できる区域が必要では。

答弁 (経済建設部長) 出店可能なエリアの創出を検討する。

質問 国道125号の開通時期は。

答弁 (経済建設部長) 本年度、県道稲敷新利根線迄の工

事及び用地買収、並行し稲敷市佐倉地内迄の用地買収を予定している。開通時期は未定。

質問 コンパクトシティ等村長の構想は。

答弁 (村長) B地区の方向性を見越し、早めに計画を作る。

県道稲敷阿見線について

質問 本年度の工事予定、用地買収の進捗状況、村ができることは。

答弁 (経済建設部長) 本年度防火水槽の取り扱い、信号機移設の検討・協議を行う。引き続き工事を推進する。

用地は買収が必要な66筆のうち21筆が未買収。

村は、竜ヶ崎工事事務所との連絡調整を密にし、できる部分は積極的に協力する。

「LGBT」について問う



松村 広志
まつむら ひろし
議 員

多様であることは自明である。誰もがより暮らしやすい地域社会に向け、本村の意向を問う。

答弁 (保健福祉部長) 様々な生き方の違いを認め、尊重することは重要である。

「人権問題」の視点からも必要と考える。人権とは「人が人らしく暮らしていくため社会によって認められていく権利」のことである。今後、村職員の住民対応も含め、県や関係機関と連携のつえ相談などに対する支援を行って参りたい。





「小中学校の二学期制導入」について



やまざき さちこ
山崎 幸子
議員

質問 新学習指導要領の全面実施に伴い授業時数が増加するが、教育委員会としてどのように対応していくのか。

答弁（教育長） 学習時間を生み出すため、来年度から村内の小中学校に、前期と後期に分かれて学習する二学期制の導入を考えている。

質問 二学期制の具体的な内容と期待される効果は。

答弁（教育長） 内容は、学期を二つに分け、前期を4月1日～10月11日、後期を10月15日～3月31日とし、夏季・

冬季休業、学年末・学年始め休業は従来と同じとする。

効果は、新学習指導要領で英語の授業時数が増えることに対応するため二学期制を導入し、通知表等の評価作業にかかる時間が減る分授業内容の充実が望め、児童生徒の学習の質を高めることができる。



ヘルプマークの周知

質問 ヘルプマークを携行していても、周りの人がヘルプマークの意味を知らなければ無意味である。周知方法は。

答弁（保健福祉部長） ヘルプマークのポスターを各所に貼って周知する。

村立小学校の現状と将来について



はなし こういち
葉梨 公一
議員

質問 村内の児童数の現状と将来の見込みについて。

答弁（教育次長） 令和元年度には3校合わせて659名で、10年後は100名程度減少し、555名程度と見込んでいる。

質問 村立小学校のあり方検討委員会の審議状況について。

答弁（教育長） 平成30年10月からこれまでで5回の検討委員会を開催した。また、本年4月には各小学校で説明会を、5月下旬には1か月間のパブリックコメントを実施、6月14日には村民説明会を開催した。まだ検討委員会とし

て決定していない適正配置に関する方針については、7月に開催する検討委員会で再度審議し方向性を出したい。

質問 村立小学校の将来について。

答弁（教育長） 村内に住む全ての子どもたちにより良い教育環境を提供するには3つの小学校の統合を考えるべきである。

答弁（村長） 村の方向性を今年度中に決め、迅速に進められるように取り計らってきたい。

骨髄ドナー助成制度

質問 制度創設の検討について。

答弁（保健福祉部長） 県の制度を活用し骨髄移植推進を図るべく、骨髄ドナー助成制度の準備をしていきたい。

国民健康保険税の住民負担軽減を



おかざわ きよし
 岡沢 清 議員

質問 国民健康保険税1世帯当たり1万円の軽減を求める。財源は、電気事業（太陽光発電）の収益で。

答弁（村長） 電気事業会計を原資として、一般会計から国保会計に繰り入れることはできない。一般会計の状況も厳しい。赤字補填のための一般会計からの繰り入れは、解消するようにと国から通知がでている。

質問 世帯の18歳以下の第3子以降の国保税均等割の全額免除を求める。

答弁（村長） 全国で25市町実施している。平成30年度の国民健康保険特別会計の決算の状況を見て、来年度の予算に反映できれば、育てやすい環境の村に行き着くことができれば、参入していきたい。

学童保育の配置基準は

質問 法律の改正で、学童保育の職員の配置基準が緩和され、1単位で2名だったのが1名でも可能になる。これまでもおりの配置体制を求める。

答弁（村長） 放課後の児童の安全な場所として放課後児童クラブがある。

一番安全を大事に対応していきたい。



健康増進事業の推進を問う



はやし しょうこ
 林 昌子 議員

質問 日常的なスポーツの習慣化や住民の健康増進、地域の活性化に向けたきつかけづくりを目的とした住民総参加型のスポーツイベント「チャレンジデー」の参加検討が出来るのか。

答弁（保健福祉部長） まずは産業文化・スポーツフェスティバルを充実させ、スポーツによる村民の健康増進と地域の活性化に努めて参りたい。

質問 県公式アプリ「元気アップ！いいばらき」が6月から開始されましたが、その概要と市町村への導入状況は。

答弁（保健福祉部長） スマートフォンにアプリをダウンロードして利用していく方法と紙媒体で記録していく方法がある。ウォーキングや健康診断の受診、健康教室等への参加によりポイントが付与され、景品やサービスなどのインセンティブと交換や応募ができる楽しみを加えて健康づくりの実践につなげていく事業。本村を含め25市町村で導入、6月現在利用者数は4,267人。

質問 健康増進事業推進に当たっての村長の見解を問う。

答弁（村長） 自分の健康は食事面を含め、自分の体力に合わせた運動をどう取り入れるかである。健康に取り組むまちと認識してもらい美浦ビジョンでも関心を促す。